広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2022年（令和４年）
11月１日　発行
11
No.1070
November 2022

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029－292－1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和４年９月末現在
男　15,618人
女　15,544人
総人口　31,162人
世帯数　13,335世帯

◆茨城町民憲章
1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎0800－800－8848
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
●町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
●町公式ツイッター
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
●町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/

里山に育む生きものたち

№123　ウスバカマキリ（カマキリ科）

学名　*Mantis religiosa* Linnaeus

写真・文　小菅　次男

▼ウスバカマキリとは

体長47～65㎜で、体色は淡緑色や褐色です。前脚の基節の内側に黒い斑紋があるのが特徴で、コカマキリなどの他のカマキリと区別が出来ます。翅はやや透明で後翅は無紋です。中型でとても美しく、カマキリにしては淑やかな雰囲気があります。

ウスバカマキリは、ユーラシア大陸を中心に世界的に広く分布する種です。日本には広く分布する北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布します。生息地は河原や草原などのごく一部に限られ、特に草丈の低い植物がまばらに生えている乾燥した草原を好みます。

南方系の種で、生息範囲は平地から丘陵地までに限られ、山地には見られません。成虫は８月頃から秋にかけて年一回発生し、冬には大きな石の陰などに産卵され、細長い卵のうで越冬します。

▼本県では絶滅危惧Ⅱ類

茨城県では生息地が非常に少ないので「絶滅危惧Ⅱ類」に指定されています。以前は旧射爆撃場跡地（ひたちなか市）に生息していましたが、大規模開発が行われた結果、生息が確認できなくなっています。

最近「美野里生物の会」によって、茨城空港近くの草原で確認され、海浜公園で行われた「茨城生物の会」比較的多数が確認されました。

県内の生息地が非常に少ない中、茨城町隣接の茨城空港近くで発見されたのは、茨城町のススキ、ヤチガヤなどのまばらに生えた草原にも生息の可能性があります。中型のカマキリを見つけた時にはぜひ注目してみてください。

▼希少昆虫の宝庫か？

本種の生息する草原には一見何の変哲もない所に見えますが、県の「準絶滅危惧」であるセグロイナゴやショウリョウバッタモドキが混生し、さらに秋の鳴く虫も多く住む、宝の草原かもしれません。

カマキリは他の昆虫を捕食する完全肉食性で生態系の上位に位置しています。ウスバカマキリは共食いするこのように、一かの数匹が少なくまとまって生活しているのが見られます。ウスバカマキリは自身に共食いを避ける性質があると言われています。本種が見られる草原は、エサ資源と言えます。

昆虫類が豊富な所の保全や創生を図りたいものです。

言えるこのような草原の価値を見直し、是非とも保全してください。

ちびっ子アート　ウィステリアナーサリースクール

「はなび」
たけうち　りゆい（５歳）

「もりのカブトムシ」
ほし　るいが（６歳）

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています